

## 編 集 後 記

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報『ジェンダー研究』第17号が無事刊行の運びとなった。執筆者をはじめ、学内外の査読者の先生方、日本語・英語校正者、印刷会社、IGSスタッフ、その他さまざまな形で関与くださる方々のおかげであり、ご協力に深く感謝申しあげる。

本号は、これまでと若干構成が異なり、二つの特集を組んでいる。一つ目は昨年度1月14日に当センター主催で開催された国際シンポジウム「災害、復興におけるジェンダー公平性を問う」から報告者二人に寄稿いただいた。東日本と同じく大津波を経験したアチェから何を学ぶのか、と問いかける池田氏の論考は、3年の月日が経とうとする現在でもまだ出来ることはあるのだ、復興はこれからである、と希望を抱かせてくれる論考である。クロンカント氏の論考はタイの洪水における老年者の避難意思決定に着眼した意欲あふれる内容となっている。

二つ目は、お茶の水女子大学大学院教授として当センターおよびCOEプログラム「ジェンダー研究のフロンティア」(F-GENS)の研究プロジェクトに多大な貢献をされ、2011年に逝去された竹村和子先生の書評・研究ノート特集である。最後の書籍である『文学力の挑戦』『彼女は何を視ているのか』『境界を攪乱する』の三作について、当該分野をリードする三氏(越智博美氏、斉藤綾子氏、清水晶子氏)にご寄稿いただいた。続く研究ノートは、二人の若手研究者(三部倫子氏、山口菜穂子氏)にご自身の研究に引き寄せ執筆いただいている。企画の詳細な経緯は、特集冒頭の天野、館両編集委員の諸言を参照されたい。

投稿に関しては、本号では7本が提出され、厳正なる審査を経て、3本の論文と1本の翻訳論文が採用された。投稿論文および研究ノートは、生命保険業における労働のジェンダー化、更年期女性像の言説形成、そして国際離婚裁判例から外国人妻へのバイアスに焦点を当てた意欲的な論考3本となった。翻訳は、昨年度に引き続き、18世紀ドイツにおける性差に関する哲学的論考が採用された。なお、翻訳者の提案により原著ページ数を本文横に併記している。書評は、政治学、表象文化論の領域から3点取り上げた。また当センターの夜間セミナーを記録したシリーズ<国際ジェンダー研究>の新刊を、図書紹介として掲載している。

このように本号も、領域横断的かつ国際色豊かにジェンダー研究の成果を扱うものとなり大変充実した内容となった。

最後に、「女性文化研究センター」の時代から当センターの教員であった、館かおる先生が今年度で退官される。本号も館先生の惜しみないご尽力とご助言なしには完成しえなかった。ここに記して心から謝意を表したい。

編集事務局 平野 恵子(研究機関研究員)

お茶の水女子大学ジェンダー研究センター年報  
『ジェンダー研究』

第17号 編集委員会

委員長	足立真理子	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター長・教授
	森 義仁	人間文化創成科学研究科自然・応用科学系准教授
	天野 知香	人間文化創成科学研究科文化科学系准教授
	荒木美奈子	人間文化創成科学研究科人間科学系准教授
	水野 勲	人間文化創成科学研究科人間科学系准教授
	館 かおる	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター教授
	申 琪榮	人間文化創成科学研究科人間科学系 ジェンダー研究センター准教授
事務局	平野 恵子	ジェンダー研究センター研究機関研究員

---

平成26年3月17日 印刷  
平成26年3月24日 発行

編集・発行 **お茶の水女子大学ジェンダー研究センター**

〒112-8610 東京都文京区大塚2-1-1  
Tel 03-5978-5846 Fax 03-5978-5845  
E-mail [igsoffice@cc.ocha.ac.jp](mailto:igsoffice@cc.ocha.ac.jp)  
URL <http://www.igs.ocha.ac.jp/>

印刷・製本 **株式会社コームラ**

Tel 058-229-5858 (代) Fax 058-229-6001

---